



都心再生に向けての緊急提言
～高知県の核の再生と振興のために～

提 言

2011年3月

土佐経済同友会

都心再生に向けての緊急提言

～高知県の核の再生と振興のために～

土 佐 経 済 同 友 会

代表幹事 久松 朋水

代表幹事 木村 祐二

代表幹事 西山 彰一

地域貢献キャンパス委員長 尾崎 敏明

《 提 言 》

永国寺・追手前地区の一体集中整備を行い、
都心再生と高知県の産業・教育・文化・福祉の振興を実現する

《 提言実現のために、整備と誘導を提案する施設や機能》

当提言では、『一体集中整備による都心再生と高知県の振興』を実現するために、永国寺・追手前地区に、以下の施設や機能の、整備と誘導を提案する。

1. 永国寺キャンパスには、教育・研修・連携施設の集中整備

- (1) 新設学部と大学院を含む、県立大学の大学教育研究施設
- (2) 新たな地域力を生み出す、産学官民連携施設
- (3) 学の力をフル活用する、県内学学連携施設
- (4) 地域の文化に貢献し、高度な産業人財を育てる、常設の、生涯学習施設
- (5) 産業振興計画実現のための、新産業分野の教育研修機関

2. 追手前小学校跡地には、情報・交流施設の集中整備

- (1) 情報の集積と受発信機能を強化した、新図書館・科学館
- (2) よさこいや龍馬などを紹介する、複合ミニシアター
- (3) 産業・教育・文化など、多岐にわたる情報をワンストップで得られる案内窓口
- (4) 放送機能を持ち、情報発信できる、メディアセンター
- (5) 県民が集い利用できる、中規模の、イベントホール
- (6) 人が集い、まちとまちをつなぐ、緑豊かな公共広場と東西通路

3. 周辺地区に、補助的な都市機能の整備を誘導

- (1) 整備される都心にふさわしい、商店街の再生を
- (2) 都心居住の受け皿となる、集合住宅を
- (3) NTT高知支店と本町郵便局の敷地に、大規模な駐車場を
- (4) ダイエー跡地に、アーケードと結ぶ南北の通路を

は じ め に

土佐経済同友会が呼びかけ人となり、産学官民の連携強化に向けて、平成21年から毎年開催している公開シンポジウム「大学と地域貢献」において、「高知県を元気にするためには、県内の人的資源を最大限に有効活用することが欠かせない。そのためには、産学官民それぞれに所属している人材の、垣根を越えての連携が必須である。そして、その連携効果を高めるには、産学官民に関わる多様な人が日常的に集まる中心市街地に、『産・学・官・民(NPO・ボランティアグループや個人)の、人が出会い多様な組み合わせや関係性を生み出す場(産学官民コミュニティ)』となる『人や産業を育成する拠点施設』を整備するのが唯一最良の手法である。」との共通認識が確認された。

この共通認識に基づく拠点施設の整備が急がれる中心市街地に、永国寺キャンパスと追手前小学校跡地という、県と市が所有し、まさにその有効活用を促すべき地域があり、それに関連して『各種の検討委員会や検討部会』が設立され、議論が続いている。

高知市の都心は、今、劇的に変わろうとしている。我々、土佐経済同友会は、このエリアを、「高知県全体が元気になるための核」と位置づけて、貴重な公共用地を同時に活用し、言わば二度と無いチャンスを活かして、高知県を再生するために、『産・学・官・民の協力による一体整備』を求め、緊急提言を提出する。

《提言の基本的な考え方》

高知の元気は、元気な人財(人は財産)の育成から始まる。その人財が様々な情報を得て、考え・交流し、新たな産業を生み出していく。その舞台となる場が、全ての県民市民が集い易い高知市の中心市街地に必要である。産学官連携による一体的整備により、当該施設運用の相乗効果を高め、併せて「中心市街地の再生」、つまり「高知県の核の再生」を図ることが、これからの県勢浮揚にとって不可欠な要素であると考えます。

県立大学永国寺キャンパスと追手前小学校跡地は、中心市街地に残された県市が所有する二つの貴重な「県民の宝物」であり、上記の人財育成と情報・交流の拠点としてこれ以上にふさわしい場所はない。それぞれの敷地の立地特性を最大限に活かし、相互補完的に整備し、相乗効果の上がる運営を継続できる体制を確立しなければならない。

そのために、県立大学を中心としたアカデミックな施設群は、高知大学や他の教育研修機関、さらには産業や行政との連携の場も含め、永国寺キャンパス地区に集約し、一方、情報の集積・受発信と、交流施設群や窓口機能は、新たに県市図書館が整備される追手前小学校跡地地区に「情報・交流の拠点」として集約すべきである。こうした一体的整備を、産学官民が力を合わせ早期に実現しなければならない。

なお、施設整備の目的を達成するためには、既存施設や組織との役割分担による相互補完や、社会人にとって不可欠な夜間の活用も含め、産学官民が一体となつての強力な組織的サポート体制の整備が必要である。また、整備後の施設の有効性増強のためにも、適切な周辺環境整備は必須であり、地域関係者の協力と開発を誘導する行政の柔軟できめ細かな努力が求められる。

《『整備と誘導する施設や機能』の具体的内容について》

『一体集中整備による都心再生と高知県の振興』を実現するために、永国寺・追手前地区に、整備と誘導を提案する、施設や機能の具体的内容は、以下の通りである。

1. 永国寺キャンパスには、教育・研修・連携施設の集中整備

(1) 新設学部と大学院を含む、県立大学の大学教育研究施設

永国寺キャンパスに、工科大マネジメント学部の拡充移転、新学部や大学院の新設などの、昨年策定された県立大学改革整備計画は、この一体整備の基本をなすものとして期待される。

(2) 新たな地域力を生み出す、産学官民連携施設

① 産学官民コミュニティ(産・学・官・民が、多様な連携の関係性を生み出す場)の設置

『一丸となった産学官民の連携』を実現するためには、産・学・官・民(NPO・ボランティアグループや個人)が出会い多様な組み合わせが生まれる、「関係性を生み出す場(産学官民コミュニティ)」を、公的支援の仕組みとして整備する事が求められる。

そして、その『人や産業を育成する産学官民連携の拠点施設』としての目的達成への秘訣は、『情熱あふれるコーディネーター』を常勤配置することである。このコーディネーターは、プロジェクトリーダーや連携窓口として、継続的な役割を果たす必要があり、移動が多い行政からでなく、民間の経験豊かな人材が望ましい。

② 「アンテナショップまるごと高知情報の、県内生産者との窓口機能」の整備

銀座のアンテナショップを県内産業の振興に活用するためには、アンテナショップで得られる情報の分析処理とフィードバック、再情報発信などの運用の仕組みが不可欠であり、県内の生産者、関係者との間で、日常的に「情報を受発信する基地と、その窓口機能」として整備することが喫緊の課題である。

③ 『TNS(土佐ネットワークシステム:仮称)』の事務局

前述の公開シンポジウムで、知事・市長を始め全登壇者が、「有益だ」とその意義を認めた『INS(岩手ネットワークシステム)』の高知版、『TNS(土佐ネットワークシステム:仮称)』の活動を、前述の『産学官民コミュニティ』と一体的に運営できる組織の設立が求められる。その事務局を併設することにより、「個人の自由な発想や交流」をキッカケに始まる「新たな連携や新産業の創出」を、支援する仕組みができることを期待する。

(3) 学の力をフル活用する、県内学学連携施設

学の力をフル活用するためには、単なる県立大の産学官連携窓口としての機能だけではなく、高知大学や他の高等教育機関と連携する、『学学連携の場』にすることも必須条件である。県立大学だけでなく、全ての連携担当者や研究者が協働して、この場所で常時活動する場が実現すれば、各々の大学、教育研究機関のレベルや存在意義もさらに向上する。

(4) 地域の文化に貢献し、高度な産業人財を育てる、常設の、生涯学習施設

地域の文化を守り育て、産業振興計画の実現のためにも、文化や産業を継承・創生・発展させる人財を育てることが不可欠である。そうであれば、週末や夜間もしくは長期休暇中の空き施設の活用を前提としたカリキュラムでは不十分なのは明らかであり、平日の昼間も含め、制約なく効率的な人財育成プログラムが計画できる、常設の人財育成機関として、社会人研修も兼ねた、生涯学習の拠点施設を整備すべきである。

(5) 産業振興計画実現のための、新産業分野の教育研修機関

産業振興計画が目指す新産業分野の振興には、従来の手法や既存の教育研究施設だけでは実現が難しい分野もある。例えばコンテンツ産業の育成には、京都の精華大学の主導するマンガミュージアムと大学教育の実践や、東京のコンテンツ教育研究専門大学などの事例、さらに現在、近未来のコンテンツ産業の方向性を精査した上で、実効性のある教育研修機関の設置など、本腰を入れて産業化に向けた新たな取り組みが望まれる。これらの人材育成と研修や広報機能をこの永国寺キャンパスに導入することも大いに検討すべきである。

2. 追手前小学校跡地には、情報・交流施設の集中整備

(1) 情報の集積と受発信機能を強化した、新図書館・科学館

① 県市が図書館を一体的に総合整備することに、賛同する

「高知県の振興と全県民の利便のために、県と市が一体となって、時代のニーズに即した、情報の集積と提供機能の充実を目指している」、基本的な姿勢に大いに賛同する。

追手前小学校跡地の東側部分には、新図書館・点字図書館・科学館の、県市による併設整備の計画が着々と進んでおり、その目指している情報の集積一元化と情報の受発信機能充実に大いなる期待をしている。なぜなら一握りのスペシャリストは別として、一般の利用者にとっては、行き易い場所に、図書や科学に関する情報が集約されている施設が整備されるのは、本当にありがたいからである。

計画の通り、県市の図書館が一体相乗的にその役割を果たせば、この図書館のレベルアップは、結果として、そのサポート下にある県下全域の図書館のレベルアップにつながり、高知県の振興のためにも、その早期実現を期待している。

② 情報ナビゲーターとしての専門的な人財の育成と配置を

全国の公共図書館には、資料の相互貸借機能の環境が整っており、高知の図書館を通して全国の資料を利用できる状況では、単なる蔵書の増加だけが競うべき事柄とは思えない。これからの図書館に、特に大きな期待が寄せられている分野は、「情報の提供力」である。そのためには、「情報ナビゲーター」の活動が重要な役割であり、図書館の機能を進化させ、産業振興にもつながると考える。

科学館についても、「どんなものを保管展示しているか」ではなく、「楽しんで科学に興味を持ってもらうための施設」であるのなら、その役割にふさわしい、「専門的な人財の育成と配置」が是非とも望まれる。

③ 夜間も利用できる施設に

社会人にとっては、他県の先進的施設と同様に、夜間の利用、少なくとも21時頃まで開館していれば、利便性が上がり、新たな利用者が大幅に増えることが期待される。今後の運営の検討に当たって、是非考慮すべき課題として提案する。

(2) よさこいや龍馬などを紹介する、複合ミニシアター

多様な活用ができる情報提供施設で、よさこいや龍馬を始めとする、土佐の祭りや観光関連情報等の映像を常時放映して、県民市民や観光客に土佐の祭りや文化を紹介し、ビデオや地域のアーカイブフィルム放映も可能な施設。

よさこいおどりの指導も行うなど、土佐の祭りや文化を紹介し、観光案内機能と共にミニ集会も開けるようなミニシアターとして、観光に大いに寄与する施設となる。

(3) 産業・教育・文化など、多岐にわたる情報をワンストップで得られる案内窓口

複雑な相談に応じる専門的なサービスを提供する場ではなく、「何でも、どんなことでも、門前払いや、たらい回しをすることなく、どこに、誰の所に行けば良いのかを教え、紹介してくれる、よろず相談案内窓口」で、産学官民のそれぞれの連携窓口と来場者とをワンストップでつなぐ、言わば産学官民すべての入り口を紹介する、『窓口の窓口』としての機能である。

実際の施設のイメージとしては、外からも見える、「ひろめ市場」や「フードコート」のような、「市場風の総合案内所」つまり、情報が商品の、『情報なんでも市場』であり、上記ミニシアターと合わせて観光案内施設としても機能する。

(4) 放送機能を持ち、情報発信できる、メディアセンター

番組の公開収録を身近に見られるスタジオ機能や、放送機能を備えたメディアとしての情報発信施設。整備される他の施設や活動とのコラボレーションも期待される。例えば、「よさこい祭り」や「土佐のお客」、「らら音楽祭」や「日曜市」などの、実況ライブ情報を、全国に発信したい。

(5) 県民が集い利用できる、中規模の、イベントホール

この地域を、「情報と交流の拠点」として整備する以上、図書館や科学館に加えて、情報窓口機能やミニシアターの設置、メディアセンターの誘導や配置が望まれるが、その場合に欠かせないものが、イベントホールや公共の広場・緑地であろう。図書館等への過重な期待に基づく負担を減らして、更に使いやすく充実した施設にするためにも、その機能を分担し、補完・増強しなければならない。その意味でも、ここに県民が集い利用できる、中規模のイベントホールの設置が望まれる。

(6) 人が集い、まちとまちをつなぐ、緑豊かな公共広場と東西通路

追手前小学校やダイエーの跡地が一緒に存する街区は、都心の商業エリアとしては規模が大き過ぎるため、買い物客を始めとする歩行者の回遊を阻害するのではないかと懸念がある。幸い、図書館・科学館の整備計画に合わせて、その街区を南北に分割し、東隣の柳町商店街と、西隣のひろめ市場とを結ぶ東西通路が、追手前小学校跡地の南端に沿って計画されている。

追手前小学校跡地の中央部には、追手筋からその東西通路に及ぶ公共広場が計画されている。この公共広場は、図書館・科学館の建物と西跡地の建物との間の公共オープンスペースとして、両施設の利用者にとっては憩いの場となる。それと共に、この広場は、両建物の窓から良く見える景色ともなるから、利用者の利便性の向上のみではなく、景観を高めるアイスポットとしても重要である。

又、追手筋は、日曜市の会場であると共に、高知城や新資料館へ観光客をいざなう道でもあり、それにふさわしく、高知の都心エリアにおいては特筆すべき、大木の並木が美しい緑豊かな通りである。

そのため、この中央の公共広場は、両側の施設からの景観や自然環境の循環という意味において重要なばかりでなく、県民市民や観光客を、その並木の美しい追手筋の散策から商店街回遊へと誘う窓口ともなる場なので、それにふさわしい、「存在感と安らぎの感じられる、まちのシンボルとしての大木」が有って、全体としても「緑豊かな森」のようなイメージの景観を醸し出せる、『日本一輝く田舎』を目指す高知県の名に恥じない、都心で輝く、緑豊かな公共広場となることを期待している。

後述の、「ダイエー跡地に、アーケードと結ぶ南北の通路が実現」できれば、この追手前小学校跡地に整備される公共広場と東西通路との相乗効果により、街区規模の適正化が実現し、新施設の利用者は元より、買い物客や観光客の回遊を促す、活発な歩行者動線が新たに出現することとなり、東西軸エリア活性化プランにおいて、「おまちの再興の目指すべき姿」と位置づけられている「まちぶらを楽しめるエリア」の実現に、大いに寄与するはずである。

3. 周辺地区に、補助的な都市機能の整備を誘導

新たに立地する施設の機能が、都心の再生に十分な効果を発揮するためには、施設の利用をサポートする周辺環境の整備が不可欠であり、平行して開発が進むよう、誘導することが大切である。

まず当エリアの周辺には初めての訪問者にも判り易い、回遊歩経路や大規模な駐車場等の設置が必要となる。さらに当然ながら、帯屋町、大橋通り商店街関係者自らの、持続的な再生に向けた活動や投資はもちろん、I ターン、J ターンなど移住を含む居住者の受け皿となる集合住宅など、交流居住人口を増やす施設への民間投資を誘導して、この地区を実質的な都心再生のモデル地域としなければ、せっかくのチャンスや公共投資の効果が不十分なものになってしまう。

個々の事情による部分最適ではなく、「県都の中心に残された貴重な県民の財産を、県民のために有効利用する」という、百年の大計としての全体最適を目指したい。

(1) 整備される都心にふさわしい、商店街の再生を

高知市の今回の都心再生計画では、大学キャンパスと商業地域との融合による中心街の活性化に止まらず、中心市街地周辺に位置する歴史的建造物や、追手筋の日曜市、ひろめ市場などとの相乗効果が期待されており、高知県の核として、より大きな活性化への動きと言える。

商店街の活性化について従来から言われ続けてきた、回遊性を活かした新たなにぎわいの創出が、この地域の整備をきっかけにさらに進むことによって、都心の再生が実体を持つことになる。そのためにも、生まれ変わる都心にふさわしい商店街として、ダイエー跡地の再開発を始めとする商店街の再活性化に向けた、地元の自らの取組みと協調が強く求められる。二度とないであろう中心商店街再生の機会を逃さぬよう、関係者と行政の真摯な努力と協働を期待する。

(2) 都心居住の受け皿となる、集合住宅を（『健康福祉委員会の移住提言』を参照）

高齢者を始めとして、『車を利用せず悠々自適な生活を送る為に、安心・安全で利便性が高い街中居住のニーズ』が高まっており、現に、今販売されている当該都心エリアのマンションの購入層は3人に2人が50歳代後半以降の世代となっており、シニア世代の一人暮らしも多く存在する。このことから、シニア世代にとって、ゆつくりと気ままに「まちぶら」が出来るユニバーサルデザインの中心商店街の実現が望まれていると考えられる。

高知市長は、コンパクトシティを目指す方針を明確にしているが、高知市の都市規模は、高知とゆかりのない人達にとっても、地域コミュニティへの参画に程良い大きさの街であり、県外在住のシニア世代が住居を構える事例も増え始めている。「50歳代後半の移住志向」や「60歳代前半の二地域居住志向」などに合わせた受け皿づくりは、高知県における今後の重要な方向となる。

また、高齢者や移住者は、生涯学習への関心も高く、今後整備される予定の、「知の拠点」や「情報・交流の拠点」の施設群は、そうした新規住民にとっても、非常に魅力的なまちの要件となる。都心に居住を希望するシニア世代と、永国寺キャンパスの若い学生や社会人との交流や、外国からの観光客との国際交流によって、地方都市における新しい形の地域コミュニティの形成が期待できる。

こうした都心居住の受け皿となる集合住宅の供給促進についても、その実現に向けた、地元関係者と行政や専門家の連携を期待したい。

(3) NTT高知支店と本町郵便局の敷地に、大規模な駐車場を

高知城と一体となって新たな観光拠点として注目されているのが、『新資料館』であり、そしてそれをつなぐ追手筋の日曜市のルートの、市民や観光客による「まちなか散歩」、つまり、東西軸エリア活性化プランで言う「まちぶら」を楽しめるエリアである。そんな『誰もがゆつくりと、楽しみながら、気ままに『まちぶら』できるエリアとするためには、その「エリア内を行き交う車の数を最少化する、まちの仕組み」がなければならない。その仕組みには、「まちぶら」を楽しむエリアの外周部に、「利用し易い大規模な駐車場」の存在が欠かせない。

ところが、現在、高知城に最も隣接した大規模駐車場として営業中の、JA駐車場(200台)は、新資料館の整備に伴い、廃止されてしまう。それを補い、さらに新たに整備される諸施設により追加発生する駐車場需要に対応するため、「300~400台程度の大規模な駐車場」の整備が必要となる。

その条件を満たす、出入りに便利な大規模な土地が、NTT高知支店と本町郵便局の連続した敷地であり、共に、現在の土地利用の状況からしても、誘導整備の可能性は十分に有ると推測される。この敷地であれば、当該地域に隣接するばかりか、交通量の最も多い本町電車通り側からの出入りも可能となり、都心の利便性が飛躍的に高まる。行政と当該各社の協議による早期の実現を期待する。

(4) ダイエー跡地に、アーケードと結ぶ南北の通路を

当エリアに隣接したダイエー跡地の西端に南北の通路スペースが出来れば、『追手筋~多目的広場~帯屋町筋商店街~帯屋町公園~オビスンロード商店街』と、追手筋からオビスンロードまでの面としてのつながりが、より充実したものとなる。これは、買い物客の回遊を促し「まちぶら」を楽しめるエリアの実現にとって、大変有効な動線となる。

私有地であるダイエー跡地の、利用価値を損なう事を避けながら、同時に、地域の再生に大きな貢献ができるであろう、この敷地の一部通路化を、行政から地権者や関係者に提案し、実現するよう期待する。

【地域貢献キャンパス委員会 活動メンバー一覧】（オブザーバー参加者を除く）

（委員長）尾崎 敏明 （副委員長）塩村 泰幸・山岡 俊則
（前年委員長）漁師 明 （前年副委員長）高橋 浩介 （書記役）栗生 敦郎
（上記役員以外の検討委員）千頭 邦夫・藤田 寛・佐藤 暢・受田 浩之
（委員）木村 祐二・筒井 康賢・鍋島 孝誠・三好 朝男・田村 真里・松木 啓
岩永 洋一郎・栗田 寛・古谷 恭一・平岡 勉・宗石 雄久・芦田 隆
依光 晃一郎・中澤 陽一・中島 和代・岡田 幸士・西川 義章
（アドバイザー）中田 慎介・松山 正博

【当提言に関わる委員会活動の概要】

①【都心キャンパス委員会】（平成16年～21年）

平成17年5月17日 提言「中心市街地活性化と高知大学一部施設の都心移転等に関する緊急提言」
（ダイエーショッパース跡地と追手前小学校の敷地の有効活用施策について）

②【臨空港研究学園都市委員会】（平成20年～21年）

平成21年6月2日（火）『第1回 公開シンポジウム「大学と地域貢献」』開催

（各大学の地域貢献の現状と計画）（議事録を同友会HPに掲載しています。）

③【地域貢献キャンパス委員会】（都心キャンパスと臨空港研究学園都市の両委員会を合併して発足）

平成22年の地域貢献キャンパス委員会（参加人数は15～20人程度）の主な活動経過

1. 15.（金）第2回シンポジウムでの議論内容の検討・県立大改革へのパブコメ方針検討
2. 12.（金）意見を集約し『県立大改革に関するパブリックコメント』として県に提出
2. 25.（木）追手前小跡地活用プラン報告・産官学連携の全国事例検討・シンポサブタイトル検討
3. 30.（火）シンポの作業フローと役割分担検討・シンポで議論する内容の検討
4. 20.（火）シンポでのディスカッションの議題と展開の検討・広報・運営・役割分担
5. 21.（金）当日配布資料と運営検討・プレゼン内容の事前依頼・ディスカッション議論展開方法検討
6. 17.（木）シンポの運営詳細・ディスカッション展開の方向性・会場からの意見聴取手法の検討
7. 3.（土）『第2回 公開シンポジウム「大学と地域貢献」（連携と貢献の見える化）』開催
7. 21.（水）シンポの実施結果総括・来年のシンポ開催における改善点の検討
8. 23.（月）TNS創設の先進事例検討・追手前小跡地への生涯学習拠点整備の提言内容検討
10. 1.（金）県市合築図書館パブコメ検討・シンポ報告書活用促進・第3回シンポ開催の検討
10. 8.（金）意見を集約し『県市合築図書館に関するパブリックコメント』として県市に提出
10. 29.（金）追手前小学校跡地の有効活用に関わる提言の検討
11. 22.（月）活動方針検討（3月に追手前小跡地等を活用した都心再生の提言・7月にシンポ開催）
12. 18.（金）高知市吉岡副市長と、追手前小跡地全体の有効利用計画に関して意見交換
12. 21.（月）知事と同友会との意見交換会で、産官学連携拠点の都心整備に関して意見交換

平成23年の地域貢献キャンパス委員会（参加人数は15～20人程度）の主な活動経過

1. 18.（火）多様な地域再生支援活動に関わっている人達との意見交換
1. 27.（木）高知市吉岡副市長と、追手前小跡地全体利用計画に関して意見交換
2. 2.（水）「都心再生に向けての緊急提言」の「取りまとめ検討会」にて提言（案）を検討
2. 17.（木）検討会が作成した提言（案）をベースに、委員全員で修正案を検討
2. 28.（月）修正案をベースに、検討会にて再検討し、「委員会案」の策定方針決定
3. 14.（月）提言（案）を同友会幹事会にて検討し、「同友会の提言」として承認

本件に関する問い合わせ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823 高知市菜園場町1-21 四国総合ビル3F

四銀キャピタルリサーチ(株)内

TEL. 088-885-6707 FAX. 088-883-1156

◇ホームページ <http://www.tosadoyukai.com/>

◇E-mail : tosadoyu@orange.ocn.ne.jp

